

令和2年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	情報システム科			教科名	コンピュータ概論	
コース名	システム開発コース			担当者	小関/正田	
学 年	1年			教科番号	1101	単位数 7.5
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修
	○					
授業概要	<p>国家試験（情報処理技術者試験）および、各種情報系検定の合格を目標として、ハードウェア・ソフトウェア・情報処理システムについての授業を行なう。 また、演習問題や過去問題、模擬試験などで受験対策を行う。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本情報技術者試験に出題される、ハードウェアのジャンルの問題に解答することが出来るようになる。 ・基本情報技術者試験に出題される、ソフトウェアのジャンルの問題に解答することが出来るようになる。 ・基本情報技術者試験に出題される、情報処理システムのジャンルの問題に解答することが出来るようになる。 					
教材名	ITワールド インフォテック・サーブ					
資格の 取得目標	<p>短期集中プラン選択の学生は ・1年次 10月 基本情報技術者試験合格を第1目標とする。 じっくりプラン選択の学生は ・2年次 4月 基本情報技術者試験合格を第1目標とする。 選択を問わず、情報処理技術者能力認定試験2級合格を目標とする。</p>					
授業内容と 教員の実務経 験の関連性	システム開発企業で勤務経験のある教員がその経験を活かしてハードウェア、ソフトウェア、情報処理システムについて授業を行う					
履修に あたっての 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の理解度をはかるため定期的に小テストを実施し、それも評価に含める。 ・スマートフォンなどの使用は禁止する。 					
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割合	60%	0%	20%	20%	0%	100%

回数	講義内容
1	ハードウェア コンピュータと情報化社会、社会の中のコンピュータ
2	ハードウェア コンピュータの歴史、コンピュータの5大装置
3	ハードウェア データの表現 基数と基数変換
4	〃
5	ハードウェア データの表現形式
6	〃
7	〃
8	〃
9	〃
10	〃
11	〃
12	〃
13	〃
14	ハードウェア 中央処理装置の構成 主記憶装置の構成
15	〃
16	ハードウェア 命令とアドレッシング
17	〃
18	ハードウェア ALUの構成回路
19	〃
20	ハードウェア 高速化技術
21	ハードウェア 磁気ディスク、光ディスク、半導体メモリ
22	〃
23	ハードウェア その他の補助記憶媒体・装置
24	ハードウェア 入力装置、出力装置
25	〃
26	ハードウェア 入出力インタフェース
27	〃
28	ハードウェア 単元テスト
29	ソフトウェア ソフトウェアの体系による分類
30	ソフトウェア ソフトウェアライセンスによる分類
31	〃
32	〃

回数	講義内容
33	ソフトウェア オペレーティングシステムの機能と構成
34	ソフトウェア OSの管理機能
35	〃
36	〃
37	ソフトウェア プログラム言語の分類
38	〃
39	ソフトウェア プログラムの属性
40	ソフトウェア ファイルとレコード、ファイルのアクセス方式
41	ソフトウェア ファイルの編成方式、小型コンピュータにおけるファイル バックアップ
42	ソフトウェア 単元テスト
43	情報処理システム 非対話型処理システムと対話型処理システム 一括処理システムと即時処理システム
44	情報処理システム 集中処理システムと分散処理システム
45	〃
46	情報処理システム 直列システム 並列システム 多重化システム
47	〃
48	〃
49	情報処理システム 処理能力の評価、信頼性の評価、経済性の評価
50	〃
51	情報処理システム ヒューマンインタフェース技術、インタフェース設計
52	〃
53	情報処理システム マルチメディア技術、マルチメディア応用
54	情報処理システム 単元テスト
55	情報処理技術者試験午前問題演習
56	〃
57	〃
58	情報処理技術者試験午後問題演習
59	〃
60	〃

令和2年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	情報システム科			教科名	セキュリティ概論	
コース名	システム開発コース			担当者	正田	
学 年	1年			教科番号	1102	単位数 2.0
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修
	○					
授業概要	<p>国家試験（情報処理技術者試験）および、各種情報系検定の合格を目標として、情報セキュリティについての授業を行なう。 また、演習問題や過去問題、模擬試験などで受験対策を行う。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティの概念を理解している。 ・情報セキュリティに関する技術と管理手法を理解している。 ・情報セキュリティ対策の手法を理解している。 					
教材名	<p>ITワールド インフォテック・サーブ 著者：インフォテック・サーブ教育研究会 出版社：株式会社インフォテック・サーブ</p>					
資格の 取得目標	<p>短期集中プラン選択の学生は ・1年次 10月 基本情報技術者試験合格を第1目標とする。 じっくりプラン選択の学生は ・2年次 4月 基本情報技術者試験合格を第1目標とする。 選択を問わず、情報処理技術者能力認定試験2級合格を目標とする。</p>					
授業内容と 教員の実務経 験の関連性	<p>システム開発企業で勤務経験のある教員がその経験を活かしてセキュリティについて授業を行う</p>					
履修に あたっての 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の理解度をはかるため定期的に小テストを実施し、それも評価に含める。 ・スマートフォンなどの使用は禁止する。 					
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割合	60%	0%	20%	20%	0%	100%

回数	講義内容
1	第1章 情報セキュリティの概要 1-1 情報セキュリティの概念
2	〃
3	1-2 情報セキュリティ技術
4	〃
5	1-3 情報セキュリティ管理
6	〃
7	1-4 情報セキュリティ機関・評価基準
8	〃
9	第2章 情報セキュリティ対策 2-1 人的セキュリティ対策
10	〃
11	2-3 技術的セキュリティ対策
12	〃
13	2-4 セキュリティ実装技術
14	〃
15	基本情報施術者試験対策 問題演習
16	〃

令和2年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	情報システム科			教科名	ネットワーク技術	
コース名	システム開発コース			担当者	杉山	
学 年	1年			教科番号	1103	単位数 4.5
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修
	○					
授業概要	<p>コンピュータ同士で情報をやり取りする技術です。 国家試験(情報処理技術者試験)取得を目標として、 ネットワーク分野について教科書に従い学ぶ。 教科書終了後は、模擬試験、過去問題演習を繰り返し行い受験対策を行う。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ネットワークの種類と特徴が理解できる。 2. 伝送能力である、回線速度、回線容量の計算ができる。 3. ネットワークの基本構成が理解できる。 4. ネットワークの基礎技術が理解できる。 5. 通信相手との取り決め(プロトコル)を学習する。 6. LANの接続形態や、接続装置を学習する。 7. IPアドレスの仕組みを学習する。 					
教材名	ITワールド、基本情報技術者 午前問題集					
資格の 取得目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年次 10月 基本情報技術者試験合格を第1目標とする。 ・ 基本情報試験合格者は、応用情報技術者試験合格を目標とする。 ・ サーフティファイ情報処理技術者能力認定試験を取得すべき検定とし、1級合格を目標とする。 					
授業内容と 教員の実務経 験の関連性	企業のシステム開発部門で勤務経験のある教員がネットワーク技術について授業を行う					
履修に あたっての 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の理解度をはかるため定期的に小テストを実施し、それも評価に含める。 ・ スマートフォンなどの使用は禁止する。 					
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割 合	70%	0%	10%	20%	0%	100%

回数	講義内容
1	インターネット: インターネットの接続補法
2	インターネット: インターネットの基本構成
3	インターネット: インターネットサービス(電子メール、Web,検索エンジン)
4	LAN: LANとは
5	LAN: LANの基礎技術
6	LAN: LAN間接続装置
7	LAN: その他のLAN技術
8	ネットワークアーキテクチャ: OSI(開放型システム間相互接続)
9	ネットワークアーキテクチャ: OSI(開放型システム間相互接続)
10	ネットワークアーキテクチャ: OSI(開放型システム間相互接続)
11	ネットワークアーキテクチャ: TCP/IP
12	ネットワークアーキテクチャ: TCP/IP
13	ネットワークアーキテクチャ: TCP/IP
14	インターネット: IPアドレスとは
15	インターネット: IPアドレス(計算問題1~4)
16	インターネット: IPアドレス(小テスト)
17	インターネット: IPアドレスの活用
18	通信ネットワークの仕組み: ネットワークの種類と特徴
19	通信ネットワークの仕組み: 基本構成
20	通信ネットワークの仕組み: 基礎技術
21	通信ネットワークの仕組み: 変調方式
22	通信ネットワークの仕組み: 誤り制御方式
23	通信ネットワークの仕組み: 誤り制御方式
24	通信ネットワークの仕組み: 誤り制御方式
25	通信ネットワークの仕組み: 計算問題(転送時間 練習問題1~4)
26	通信ネットワークの仕組み: 伝送制御手順(ベーシック手順)
27	通信ネットワークの仕組み: 伝送制御手順(HDLC手順)
28	通信ネットワークの仕組み: 電気通信サービス
29	通信ネットワークの仕組み: 章末問題
30	ネットワーク管理: ネットワーク運用管理
31	ネットワーク管理: ネットワーク管理手法
32	基本情報過去問題: 午前問題

回数	講義内容
33	基本情報過去問題:午前問題
34	基本情報過去問題:午後問題
35	期末試験
36	期末試験(解答解説)

令和2年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	情報システム科			教科名	データベース技術	
コース名	システム開発コース			担当者	杉山	
学 年	1年			教科番号	1104	単位数 3.0
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修
	○					
授業概要	<p>コンピュータでデータを扱う方法である。 国家試験（情報処理技術者試験）取得を目標として、 データベース分野について教科書に従い学ぶ。 教科書終了後は、過去問題演習を繰り返し行い受験対策とする。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. データベースとファイルの違いが理解できる。 2. データベースの設計、定義ができるようになる。 3. データベースの操作として、SQL言語が使いこなすことができる。 4. データベースの制御の方法が理解できる。 5. いろいろなデータベースを学習する。 					
教材名	ITワールド、基本情報技術者 午前問題集					
資格の 取得目標	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次 10月 基本情報技術者試験合格を第1目標とする。 ・基本情報試験合格者は、 応用情報技術者試験合格を目標とする。 ・サーティファイ情報処理技術者能力認定試験を取得すべき検定とし、1級合格を目標とする。 					
授業内容と 教員の実務経 験の関連性	企業のシステム開発部門で勤務経験のある教員がその経験を活かしてデータベース技術について授業を行う					
履修に あたっての 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の理解度をはかるため定期的に小テストを実施し、それも評価に含める。 ・スマートフォンなどの使用は禁止する。 					
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割合	70%	0%	10%	20%	0%	100%

回数	講義内容
1	データベースの概要:データベースとファイルの違い
2	データベースの概要:データベースの設計
3	データベースの設計:データモデル(ネットワークモデル、階層モデル)
4	データベースの設計:関係モデル(リレーションモデル)
5	SQL データ操作:条件指定のない参照
6	SQL データ操作:条件指定のある参照
7	SQL データ操作:条件指定のある参照(グループ化)
8	SQL データ操作:条件指定のある参照(整列)
9	SQL データ操作:条件指定のある参照(結合)
10	SQL データ操作:副照会(副問合せ)
11	SQL データ操作:副照会(副問合せ)
12	SQL データ操作:データの追加・更新・削除
13	SQL データ操作:カーソルの使い方
14	SQL データ定義:データベースの定義、テーブルの定義
15	SQL データ定義:ビューの定義
16	データベース管理システム(DBMS):データベース定義機能
17	データベース管理システム(DBMS):データベース制御機能
18	データベース管理システム(DBMS):データベース障害回復機能
19	データベースの論理設計:正規化の意味
20	データベースの論理設計:正規化の演習問題
21	データベースの概念設計:E-Rモデル(E-R図)書き方、読み方
22	いろいろなデータベース:分散データベース、データウェアハウス(ビッグデータ)
23	基本情報過去問題:データベース午前問題
24	基本情報過去問題:データベース午後問題

令和2年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	情報システム科			教科名	ITストラテジ 概論	
コース名	システム開発コース			担当者	金井	
学 年	1年			教科番号	1107	単位数 4.5
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修
	△		○			
授業概要	<p>国家試験（情報処理技術者試験）取得を目標として、IT戦略とマネジメント分野について教科書に従い学ぶ。章末は、分野別過去問題演習を繰り返し行い受験対策とする。</p>					
到達目標	<p>1・企業活動の概要を学習し、情報システムが企画され、完成されるまでの一連の流れをまず理解する。 2・経営戦略に必要な現状分析手法を学び、分析結果から情報戦略を立てるための基礎知識を理解する。 3・上記は基本情報試験では「ストラテジ」分野である。小テストを繰り返し、検定の合格ライン+10点を目指す。 4・基本情報試験の午後試験は他分野の要素も含んだ総合問題である。他分野の授業も進んだ後半に対策を行う。読解力が重視されるため、知識よりも問題の読み取り手法をマスターする。</p>					
教材名	IT戦略とマネジメント					
資格の 取得目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年次 10月 基本情報技術者試験合格を第一目標とする。 ・ 基本情報技術者試験合格者は、 応用情報技術者試験合格を目標とする。 ・ サーフティファイ情報処理技術者能力認定試験を取得すべき検定とし、1級合格を目標とする。 					
授業内容と 教員の実務経 験の関連性	ゲーム開発企業で勤務経験のある教員がその経験を活かしてストラテジ系(情報システム戦略、経営戦略、企業と法務)について授業を行う					
履修に あたっての 留意点	・ 授業の理解度をはかるため定期的に小テストを実施し、それも評価に含める。					
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割 合	70%	0%	10%	20%	0%	100%

回数	講義内容
1	ノートの取り方(P176)IT業界の業務進行の流れ。試験区分と職種の関係 (P8~15)企業活動(企業活動の流れ・CSR・CIO・経営組織・PDCA)
2	(P66~73)企画段階-業務分析(ブレインストーミング・KJ法・デシジョンテーブル)
3	(P66~73)企画段階-業務分析(デシジョンテーブル・グラフ・ABC分析・データマイニング)
4	(P59~65)企画段階-IE(経営工学)分析(OC曲線・バスタブ曲線・QC七つ道具・新QC七つ道具)
5	企画段階1-小テスト
6	(P114~119)企画段階-経営戦略①(競争地位分析・コアコンピタンス・SWOT)
7	(P114~119)企画段階-経営戦略②(アライアンス・PPM)
8	(P120~128)企画段階-マーケティング(3C・4P・プロダクトライフサイクル・CSF・BSC)
9	企画段階2-小テスト
10	(P47~)進行管理段階①(ガントチャート・アローダイヤグラム)
11	(P47~)進行管理段階②(ガントチャート・アローダイヤグラム)
12	(P47~)進行管理段階③(人月計算)
13	(P132~135)技術戦略(MOT・オープンイノベーション・キャズム・R&D・コンカレントエンジニアリング)
14	進行管理・技術戦略-小テスト
15	(P16~21)企業会計-財務会計①(基本的な考え方・賃借対象表)
16	(P16~21)企業会計-財務会計②(先入先出法・損益計算書)
17	(P16~21)企業会計-財務会計③(損益計算書・キャッシュフロー)
18	(P22~)企業会計-管理会計(指標・損益分岐点)
19	企業会計-小テスト
20	(P50~52)在庫管理・(P129~131)
21	(P129~131)経営管理システム(ERP・SCM・KM・AI・CRM・SFA)
22	(P136~137)社内情報システム(グループウェア・ERP・POS・電子カルテ) ・(P172~)業務プロセス改善システム(BPR・RPA)
23	情報システム1-小テスト
24	(P174~175)ソリューションビジネス(SaaS・SOA・ホスティング・DX)
25	(P138)行政システム・公共情報システム
26	(P139)生産管理(JIT・FA・MRP・CAD)・(P142~144)e-ビジネス(EC・電子決済)
27	(P145~148)e-ビジネスの活用(インターネット広告・ロングテール・EDI・ソーシャルメディア)
28	情報システム2-小テスト
29	(P74~78)知的財産権(著作権・産業財産権・不正競争防止法)
30	(P79~85)セキュリティ関連法規①(サイバーセキュリティ戦略・不正アクセス禁止法・個人情報保護法)
31	(P79~85)セキュリティ関連法規②(プロバイダ責任制限法・刑法)
32	(P86~95)労働関連・取引関連法規(労働基準法・請負契約・派遣契約・アウトソーシング・ライセンス・OSS)

回数	講義内容
33	法規-小テスト
34	前期末試験
35	前期末試験の解説・ストラテジ範囲のまとめ
36	マネジメント分野との共通点について

令和2年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	情報システム科			教科名	システム開発概論	
コース名	システム開発コース			担当者	坪井	
学 年	1年			教科番号	1105	単位数 2.5
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修
	△	○				
授業概要	<p>国家試験（情報処理技術者試験）および、各種情報系検定の合格を目標として、ハードウェア・ソフトウェア・情報処理システムについての授業を行なう。 また、演習問題や過去問題、模擬試験などで受験対策を行う。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・システム開発の流れを理解し、それぞれの工程で必要な成果物が理解できる。 ・テストの目的を理解し、適切なテストデータを判別することができる。 					
教材名	IT戦略とマネジメント インフォテック・サーブ					
資格の 取得目標	<p>短期集中プラン選択の学生は ・1年次 10月 基本情報技術者試験合格を第1目標とする。 じっくりプラン選択の学生は ・2年次 4月 基本情報技術者試験合格を第1目標とする。 選択を問わず、情報処理技術者能力認定試験2級合格を目標とする。</p>					
授業内容と 教員の実務経 験の関連性	システム開発企業で勤務経験のある教員がその経験を活かしてシステム開発の基礎知識について授業を行う					
履修に あたっての 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の理解度をはかるため定期的に小テストを実施し、それも評価に含める。 ・スマートフォンなどの使用は禁止する。 					
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割 合	40%	0%	30%	30%	0%	100%

回数	講義内容
1	イントロダクション
2	システム開発プロセス システム要件定義プロセス システム方式設計プロセス
3	実装プロセス システム結合プロセス
4	システム適格性確認テストプロセス システム導入プロセス
5	ソフトウェア要件定義プロセス ソフトウェア方式設計プロセス
6	ソフトウェア詳細設計プロセス
7	ソフトウェア構築プロセス
8	ソフトウェア結合プロセス
9	ソフトウェア適格性確認テストプロセス
10	ソフトウェア導入・受入れ支援プロセス
11	保守プロセス 廃棄プロセス
12	ソフトウェア開発手法
13	ソフトウェア設計手法
14	開発プロセス
15	知的財産適用管理
16	開発環境管理
17	構成管理・変更管理
18	Webアプリケーション
19	基本情報過去問題演習
20	基本情報過去問題演習

令和2年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	情報システム科			教科名	マネジメント概論	
コース名	システム開発コース			担当者	金井	
学 年	1年			教科番号	1106	単位数 2.0
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修
	△		○			
授業概要	<p>国家試験（情報処理技術者試験）取得を目標として、IT戦略とマネジメント分野について教科書に従い学ぶ。章末は、分野別過去問題演習を繰り返し行い受験対策とする。</p>					
到達目標	<p>1・企業活動の概要を学習し、情報システムが企画され、完成されるまでの一連の流れをまず理解する。 2・経営戦略に必要な現状分析手法を学び、分析結果から情報戦略を立てるための基礎知識を理解する。 3・上記は基本情報試験では「ストラテジ」分野である。小テストを繰り返し、検定の合格ライン+10点を目指す。 4・基本情報試験の午後試験は他分野の要素も含んだ総合問題である。他分野の授業も進んだ後半に対策を行う。読解力が重視されるため、知識よりも問題の読み取り手法をマスターする。</p>					
教材名	IT戦略とマネジメント					
資格の 取得目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年次 10月 基本情報技術者試験合格を第一目標とする。 ・ 基本情報技術者試験合格者は、 応用情報技術者試験合格を目標とする。 ・ サーフティファイ情報処理技術者能力認定試験を取得すべき検定とし、1級合格を目標とする。 					
授業内容と 教員の実務経 験の関連性	ゲーム開発企業で勤務経験のある教員がその経験を活かしてマネジメント系(プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント、システム監査)について授業を行う					
履修に あたっての 留意点	・ 授業の理解度ををはかるため定期的に小テストを実施し、それも評価に含める。					
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割 合	70%	0%	10%	20%	0%	100%

回数	講義内容
1	PM段階、SM段階、それぞれの職業について(ストラテジの1の話題復習)
2	(P181~184)要件定義(ストラテジでの分析・テクノロジーでの構造化)・(P267~270)スコープ定義・人月計算
3	(P47~49,272~274)スケジュール計画(アローダイヤグラム・クリティカルパス・ガントチャート)
4	要件定義～スケジュール計画段階-小テスト
5	(P276~277)見積もり手法・(P278~279)リスクマネジメント・(P280~281)品質管理(ストラテジでのQC七つ道具など復習)
6	スケジュール管理～品質管理段階-小テスト
7	(P295~300)システム導入・移行・稼働率・セキュリティ管理・SLM
8	(P308)サービスデスク・(P222~223,P301~302)インシデント管理・問題管理・(P303~304)構成管理・変更管理
9	(P307)バックアップ・監視・(P309~310)ファシリティマネジメント
10	サービスマネジメント-小テスト
11	(P316~325)情報セキュリティ監査(監査人の独立性・監査証拠・内部監査)・(P326~328)内部統制・ITガバナンス
12	(P274~275)午後問題対策-スケジュールの管理(トレンドチャート・EVM)
13	午後問題対策-ストラテジのシステム構築関係
14	午後問題対策-マネジメントのスケジュール関係
15	午後問題対策-ストラテジの戦略関係
16	前期末試験

令和2年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	情報システム科			教科名	総合演習 I	
コース名	システム開発コース			担当者	小関	
学 年	1年			教科番号	1108	単位数 3.0
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		選択
	○	△				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年秋期国家試験（基本情報技術者試験）合格を目標として全分野について、模擬試験や過去問題などで問題演習を繰り返し行ない受験対策とする。 ・Javaプログラミング能力認定試験2級、情報処理技術者能力認定試験2級合格を目標として、模擬試験などで問題演習を繰り返し実施し、受験対策を行なう。 					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング分野についての出題に対して答えることができる。 ・情報処理技術者能力認定試験2級2部の選択分野に対して答えることができる。 ・基本情報技術者試験のプログラム・アルゴリズムの流れをトレースできるようになる。 					
教材名	Javaプログラミング能力認定試験3級問題集 サーティファイ情報処理能力認定委員会 情報処理技術者能力認定試験2級問題集 サーティファイ情報処理能力認定委員会					
資格の 取得目標	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次 7月 情報処理技術者能力認定試験 2級1部合格を目標とする。 9月 情報検定情報システム試験システムエンジニア認定を目標とする。 情報処理技術者能力認定試験 2級合格を目標とする。 10月 基本情報技術者試験合格を目標とする。 					
授業内容と 教員の実務経 験の関連性	システム開発企業で勤務経験のある教員がその経験を活かして国家試験対策を行う（夏季～10月特別授業週に実施）					
履修に あたっての 留意点	・9月、10月に行なわれる各検定の可否に関して評価に含めるものとする。					
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割合	30%	0%	40%	30%	0%	100%

回数	講義内容
1	Java言語の特徴・オブジェクト指向について
2	オブジェクト指向について
3	Javaにおけるオブジェクト指向の実現方法
4	Javaにおけるオブジェクト指向の実現方法
5	例外処理
6	サーティファイ情報処理2級1部問題演習
7	〃
8	サーティファイJavaプログラミング3級問題演習
9	〃
10	サーティファイ情報処理2級2部問題演習
11	〃
12	〃
13	〃
14	〃
15	〃
16	〃
17	基本情報技術者試験午前問題演習
18	〃
19	〃
20	〃
21	基本情報技術者試験セキュリティ問題演習
22	基本情報技術者試験アルゴリズム問題演習
23	〃
24	基本情報技術者試験プログラム言語問題演習

令和2年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	情報システム科			教科名	総合演習Ⅱ	
コース名	システム開発コース			担当者	小林ナ	
学 年	1年			教科番号	1109-1	単位数 3.0
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修
	○					
授業概要	PCやスマートフォン、タブレットなどのハードウェアコンポーネントと機能、互換性やネットワーク、セキュリティ、基本的なITリテラシーに関するスキルを習得する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ CompTIA IT Fundamentals認定資格合格を目標とする。 ・ IT技術者が当然知っておくべきリテラシー知識を網羅的に習得する。 ・ パソコンやホームネットワークで発生するトラブルを解決できる知識を習得する。 ・ 一般ユーザがパソコンなどのIT機器や、ホームネットワークを導入する際に、適格なアドバイスができる知識を習得する。 					
教材名						
資格の 取得目標	CompTIA IT Fundamentals認定資格					
授業内容と 教員の実務経 験の関連性	コンピュータ関連企業で勤務経験を有する教員がその経験を活かして秋期、冬期検定対策を行う(10月特別授業週後に実施)					
履修に あたっての 留意点	原則的に、毎回の授業後半に問題演習を行う。					
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割 合	70%	0%	10%	20%	0%	100%

回数	講義内容
1	1 ソフトウェア・コンピュータとOS
2	1 ソフトウェア・コンピュータとOS
3	1 ソフトウェア・アプリケーション
4	1 ソフトウェア・アプリケーション
5	1 ソフトウェア・プログラミングとアプリ開発
6	1 ソフトウェア・データベースの活用
7	2 ハードウェア・入出力デバイス
8	2 ハードウェア・入出力デバイス
9	2 ハードウェア・CPUとメモリー
10	2 ハードウェア・ストレージ
11	2 ハードウェア・インタフェース
12	2 ハードウェア・インタフェース
13	3 ネットワーク・ネットワークの概念
14	3 ネットワーク・ネットワークへの接続
15	3 ネットワーク・データ共有とストレージ
16	3 ネットワーク・データ共有とストレージ
17	3 ネットワーク・モバイルデバイス
18	3 ネットワーク・安全なWeb閲覧
19	4 セキュリティ・外部からの脅威
20	4 セキュリティ・脅威に対するセキュリティ管理
21	4 セキュリティ・コンピュータの安全な使用と管理
22	4 セキュリティ・コンピュータの安全な使用と管理
23	5 トラブルシューティング・デバイス・ネットワークのトラブル
24	5 トラブルシューティング・OSのトラブル

令和2年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	情報システム科			教科名	総合演習Ⅱ	
コース名	システム開発コース			担当者	杉山	
学 年	1年			教科番号	1109-2	単位数 3.0
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修
	○					
授業概要	<p>国家試験(情報処理技術者試験)取得を目標として、ネットワーク、データベース分野について問題集に従い学ぶ。 問題集終了後は、模擬試験、過去問題演習を繰り返し行い受験対策を行う。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ネットワーク技術について基礎知識が身に付く 2. データベース技術について基礎知識が身に付く 3. IT戦略(ストラテジ)について知識が身に付く 4. マネジメント系について知識が身に付く 					
教材名	基本情報技術者 午前問題集 過去問題のプリント					
資格の 取得目標	<p>基本情報技術者試験に未合格の学生は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年次 4月 基本情報技術者試験合格を第1目標とする。 <p>基本情報技術者試験を合格済の学生に関しては</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年次 4月 応用情報技術者試験合格を第1目標とする。 					
授業内容と 教員の実務経 験の関連性	企業のシステム開発部門で勤務経験のある教員がその経験を活かして秋期、冬期検定対策を行う(10月特別授業週後に実施)					
履修に あたっての 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の理解度をはかるため定期的に小テストを実施し、それも評価に含める。 ・スマートフォンなどの使用は禁止する。 					
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割合	70%	0%	10%	20%	0%	100%

回数	講義内容
1	ネットワーク技術の復習:IPA終了試験、サーティファイ 問題集にて
2	ネットワーク技術の復習:IPA終了試験、サーティファイ 問題集にて
3	ネットワーク技術の復習:IPA終了試験、サーティファイ 問題集にて
4	ITストラテジの復習:IPA終了試験、サーティファイ 問題集にて
5	データベース技術の復習:IPA終了試験、サーティファイ 問題集にて
6	データベース技術の復習:IPA終了試験、サーティファイ 問題集にて
7	データベース技術の復習:IPA終了試験、サーティファイ 問題集にて
8	マネジメントの復習:IPA終了試験、サーティファイ 問題集にて
9	基本情報午前問題:ネットワーク技術及びデータベース技術(2020秋)
10	基本情報午前問題:ネットワーク技術及びデータベース技術(2017春)
11	基本情報午前問題:ネットワーク技術及びデータベース技術(2017秋)
12	基本情報午前問題:ネットワーク技術及びデータベース技術(2018春)
13	基本情報午前問題:ネットワーク技術及びデータベース技術(2018秋)
14	基本情報午前問題:ネットワーク技術及びデータベース技術(2019春)
15	基本情報午前問題:ネットワーク技術及びデータベース技術(2019秋)
16	基本情報午前問題:ネットワーク技術及びデータベース技術(2020春)
17	基本情報午後問題:ネットワーク技術あるいはデータベース技術(2020秋)
18	基本情報午後問題:ネットワーク技術あるいはデータベース技術(2017春)
19	基本情報午後問題:ネットワーク技術あるいはデータベース技術(2017秋)
20	基本情報午後問題:ネットワーク技術あるいはデータベース技術(2018春)
21	基本情報午後問題:ネットワーク技術あるいはデータベース技術(2018秋)
22	基本情報午後問題:ネットワーク技術あるいはデータベース技術(2019春)
23	基本情報午後問題:ネットワーク技術あるいはデータベース技術(2019秋)
24	基本情報午後問題:ネットワーク技術あるいはデータベース技術(2020春)

令和2年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	情報システム科			教科名	プログラミング実習(基礎)	
コース名	システム開発コース			担当者	小関	
学 年	1年			教科番号	1110-1	単位数 2.0
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修
	○					
授業概要	<p>プログラミング言語であるJavaの基礎的な部分を学ぶと同時に、プログラムを組む上で必要なアルゴリズム（処理手順）とデータ構造を学ぶ。代表的なアルゴリズムをフローチャートや擬似言語で表現し、Java言語を用いて実際にコンピュータ上に実装する。</p>					
到達目標	<p>プログラムの開発に必要な3つの制御を学び、基本的なプログラムが書けるようになることを目標とする。 また、基本情報技術者試験に出題されるアルゴリズムの問題が解けるようになることを目標とする。</p>					
教材名	スッキリわかるJava入門 第3版					
資格の 取得目標	基本情報技術者試験					
授業内容と 教員の実務経 験の関連性	システム開発企業で勤務経験のある教員がその経験を活かしてJava言語の基本文法の修得 基本情報アルゴリズム対策を行う					
履修に あたっての 留意点	中間試験を実施し、それも評価に含める。 実習課題は期限の厳守はもちろんのこと、ロジックやインデントなど細かな点もチェックし、作成マナーも身につけるようにする。					
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割 合	40%	30%	10%	20%	0%	100%

回数	講義内容
1	イントロダクション プログラムとは プログラム言語の種類
2	キーボード入力練習
3	プログラムの構造、Java言語の特徴
4	フローチャートの読み方、考え方
5	プログラムで使用する演算子
6	プログラムの3大要素
7	条件分岐
8	条件分岐
9	繰返し
10	繰返し
11	再帰
12	再帰
13	基本情報技術者試験午前問題 データ構造とアルゴリズム
14	基本情報技術者試験午前問題 データ構造とアルゴリズム
15	基本情報技術者試験午前問題 データ構造とアルゴリズム
16	基本情報技術者試験午前問題 データ構造とアルゴリズム

令和2年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	情報システム科			教科名	プログラミング実習(基礎)	
コース名	システム開発コース			担当者	水口/小林ナ	
学 年	1年			教科番号	1110-2	単位数 10.0
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別	必修	
	○					
授業概要	プログラミング言語であるJavaの基礎的な部分を学ぶと同時に、プログラムを組む上で必要なアルゴリズム（処理手順）とデータ構造を学ぶ。代表的なアルゴリズムをフローチャートや擬似言語で表現し、Java言語を用いて実際にコンピュータ上に実装する。					
到達目標	プログラムの開発に必要な3つの制御を学び、基本的なプログラムが書けるようになることを目標とする。 また、基本情報技術者試験に出題されるアルゴリズムの問題が解けるようになることを目標とする。					
教材名	スッキリわかるJava入門 第3版					
資格の 取得目標	基本情報技術者試験					
授業内容と 教員の実務経 験の関連性	コンピュータ関連企業で勤務経験を有する教員がその経験を活かしてJava言語の基本文法の修得 基本情報アルゴリズム対策を行う					
履修に あたっての 留意点	中間試験を実施し、それも評価に含める。 実習課題は期限の厳守はもちろんのこと、ロジックやインデントなど細かな点もチェックし、作成マナーも身につけるようにする。					
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割 合	40%	30%	10%	20%	0%	100%

回数	講義内容
1	アルゴリズムとデータ構造
2	フローチャート、擬似言語
3	Java開発環境
4	Javaプログラムの作成と作成マナー(インデント)
5	データの記憶と変数
6	計算と結果表示
7	コンパイルエラーの対処方法
8	3つの制御構造(順次、分岐、繰り返し)
9	フローチャートや擬似言語での表現
10	キーボード入力
11	Javaの分岐の書き方と制御
12	if～else～
13	”
14	”
15	最大値を求めるアルゴリズム
16	if～else if～
17	”
18	多重分岐(ネスト)
19	ifのネスト
20	”
21	論理演算子による条件指定
22	AND、OR、NOT
23	”
24	多方向分岐(CASE)
25	switch～case
26	”
27	繰り返しの制御
28	while条件とuntil条件、先判定と後判定
29	while文
30	”
31	for文
32	”

回数	講義内容
33	〃
34	forのネスト
35	〃
36	do～while文
37	〃
38	配列とデータ構造
39	要素を示す添え字(Index)
40	配列のデータの合計値と最大値を求める
41	2次元配列
42	〃
43	配列を使った探索のアルゴリズム
44	線形探索と番兵方式
45	2分探索(バイナリサーチ)
46	〃
47	プログラムの分割とメソッド(関数)
48	引数と戻り値
49	関数の4つのパターン
50	〃
51	〃
52	スタックとキュー
53	〃
54	ソートのアルゴリズム
55	①選択ソート(基本選択法)
56	〃
57	②バブルソート
58	〃
59	③挿入ソート
60	〃
61	④クイックソート
62	〃
63	Javaオブジェクト指向プログラミング
64	Javaのクラスとインスタンス

回数	講義内容
65	〃
66	配列以外のデータ構造
67	①リスト構造
68	〃
69	②ツリー構造
70	2分木
71	2分探索木
72	ヒープ
73	〃
74	Javaのクラスとコンストラクタ
75	〃
76	基本情報過去問対策
77	〃
78	〃
79	まとめ
80	〃

令和2年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	情報システム科			教科名	プログラミング実習(応用)	
コース名	システム開発コース			担当者	正田	
学 年	1年			教科番号	1111-1	単位数 3.0
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修
	△		○			
授業概要	Python言語のプログラミング技術を修得し、AI基盤技術の画像認識技術などを用いたアプリケーション開発技法を学習する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ Python言語の基本的なプログラミングができる。 ・ Python言語のデスクトップアプリが作成できる。 ・ Python言語によるテキストマイニングが実装できる。 ・ Python言語による画像認識プログラムを作成できる。 ・ Python言語による簡単なアプリケーションを作成できる。 					
教材名	実践力を身につけるPythonの教科書 著者：クジラ飛行机 出版社：株式会社マイナビ出版					
資格の 取得目標	なし					
授業内容と 教員の実務経 験の関連性	システム開発企業で勤務経験のある教員がその経験を活かしてPython言語などのプログラム応用技術の修得について授業を行う					
履修に あたっての 留意点	・ Python言語の習熟度と制作課題の完成度により評価する。					
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割 合	30%	40%	10%	20%	0%	100%

回数	講義内容
1	Pythonプログラミングの基礎 Pythonについて Pythonの開発環境の準備 プログラミングの作成と実行
2	Pythonプログラミングの基礎 変数、文字列
3	Pythonプログラミングの基礎 制御構文
4	〃
5	Pythonプログラミングの基礎 リスト、辞書型、文字列操作
6	〃
7	Pythonプログラミングの基礎 関数の定義と利用、無名関数、イテレータとジェネレータ
8	〃
9	Pythonプログラミングの基礎 モジュールやパッケージの利用、ファイル処理、正規表現
10	〃
11	まとめ
12	Pythonプログラミングの実践 デスクトップアプリ
13	〃
14	Pythonプログラミングの実践 テキストマイニング
15	〃
16	〃
17	Pythonプログラミングの実践 画像認識 動画認識
18	〃
19	〃
20	〃
21	Pythonによるアプリの制作 テキストマイニング、画像認識を使用したデスクトップアプリの制作
22	〃
23	〃
24	〃

令和2年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	情報システム科			教科名	プログラミング実習(応用)	
コース名	システム開発コース			担当者	水口	
学 年	1年			教科番号	1111-2	単位数 3.0
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別	必修	
	△		○			
授業概要	Javaの基礎で学んだことをベースに、オブジェクト指向プログラミングを学ぶ。					
到達目標	Java言語を使って簡単なアプリケーションを作成できるようになる。					
教材名	スッキリわかるJava入門 第3版					
資格の 取得目標						
授業内容と 教員の実務経 験の関連性	コンピュータ関連企業で勤務経験を有する教員がその経験を活かしてPython言語などのプログラム応用技術の修得について授業を行う					
履修に あたっての 留意点	実習課題は期限の厳守はもちろんのこと、最適なロジックやインデントなどもチェックする。					
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割 合	40%	30%	10%	20%	0%	100%

回数	講義内容
1	オブジェクト指向プログラミング クラスとインスタンス
2	コンストラクタとオーバーロード
3	メソッドのとオーバーロード
4	カプセル化とprivate
5	getterとsetter
6	アクセス制御
7	staticメソッド、オブジェクトの参照・配列
8	クラスの継承
9	スーパークラスとサブクラス
10	thisとsuper
11	オーバーライド
12	抽象クラスと抽象メソッドの実装
13	
14	インターフェースの定義と実装
15	
16	多様性
17	
18	例外処理
19	
20	クラスライブラリー
21	
22	GUIプログラミング
23	様々なコントロール
24	・ラベル・テキストボックス・ラジオボタンなど

令和2年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	情報システム科			教科名	システム関連技術I	
コース名	システム開発コース			担当者	小関	
学 年	1年			教科番号	1112	単位数 6.0
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修
	△		○			
授業概要	Webサービスの実現に欠かせないサーバの構築やクラウドサービスの利活用について学習する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・Linuxにミドルウェアをインストールすることができる。 ・クラウドサービスを活用し、Webページを公開することができる。 					
教材名						
資格の 取得目標						
授業内容と 教員の実務経 験の関連性	システム開発企業で勤務経験のある教員がその経験を活かしてクラウド関連技術について授業を行う					
履修に あたっての 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の理解度をはかるため期末テストを実施し、それも評価に含める。 ・課題進捗状況を確認し、進捗具合を評価に含める。 ・スマートフォンなどの使用は禁止する。 					
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割 合	25%	30%	25%	20%	0%	100%

回数	講義内容
1	イントロダクション Webサービスの仕組み、サーバの役割
2	仮想環境について
3	Linux環境運用実習① 環境構築
4	Linux環境運用実習② 基本操作
5	Linux環境運用実習③ 応用操作
6	Webアプリケーションに見るインフラ構成例 サーバの種類
7	サーバ構築運用実習① WEBサーバ
8	サーバ構築運用実習② DBサーバ
9	オンプレミスとクラウド
10	クラウドサービスの種類 SaaS PaaS IaaS MBaaS
11	クラウドの設計原理
12	〃
13	クラウドのセキュリティ
14	〃
15	〃
16	〃
17	〃
18	〃
19	クラウドの活用(座学)
20	〃
21	クラウドの活用(コンピューティング)
22	〃
23	〃
24	〃
25	〃
26	〃
27	〃
28	〃
29	〃
30	〃
31	ストレージの利用方法
32	〃

回数	講義内容
33	〃
34	〃
35	クラウドのネットワーキング
36	〃
37	〃
38	〃
39	データベースの利用
40	〃
41	〃
42	〃
43	管理・料金体系について
44	〃
45	〃
46	〃
47	〃
48	期末試験

令和2年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	情報システム科			教科名	キャリアデザイン I	
コース名	システム開発コース			担当者	小関/坪井	
学 年	1年			教科番号	1113-1	単位数 5.5
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修
	△		○			
授業概要	様々な教育アプローチを通じて、キャリア形成に必要とされる意欲・態度及び価値観を醸成し、社会的・職業的自立を目指す。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実践行動学、グループワークでの学びを踏まえて夢実現に向けて「心のあり方」と「達成のスキル」を身につけることができる ・世の中にある様々な職業について学び、また就職活動に向けての準備を通じて働く事の意義や就労意識を持つことができる ・自己ブランディングを用いて、自分自身の特徴を可視化、自覚することで履歴書などでの自己アピールに繋げることができる ・その場その場にふさわしい表現方法で自分の気持ちや考えなどを正直に伝えられるようなコミュニケーションスキルを身につけることができる 					
教材名	<ul style="list-style-type: none"> ・「マイロード21」就職指導研究会 著 実教出版 発行 ・「最新!SPI3完全版」柳本新二 著 株式会社高橋書店 発行 ・「夢実現のための実践行動学」一般社団法人 実践行動学研究所 編著・発行 ・「自己発見・自己ブランディング」 					
資格の 取得目標						
授業内容と 教員の実務経 験の関連性	システム開発企業で勤務経験のある教員がその経験を活かして履歴書の作成や自己ブランディングの講義を行う					
履修に あたっての 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物の項目は、完成度だけでなく提出期限が守られていたかなども評価対象とする。 ・スマートフォンなどの使用は禁止する。 					
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割 合	0%	40%	30%	30%	0%	100%

回数	講義内容
1	ソーシャルスキル:コミュニケーションの基本を知る オリエンテーション、自己紹介
2	ソーシャルスキル:私は誰、あなたは誰 マンダラチャートを使用し、2年間の目標を立てる
3	学生の手引き(建学の精神、教育理念、教育方針) 年間スケジュールの説明(行事の目的、学校の過ごし方)
4	自己ブランディング:自己ブランディングの目的 自己ブランディング:STEP1(自己分析・発見)-自分に光を当てる-テーマ1学校生活から得た資産
5	自己ブランディング:自己ブランディングの記入 個人ガイダンス
6	〃
7	〃
8	職業観、業種と職種の違いを調査 自己分析シートの作成
9	自己ブランディング:STEP1(自己分析・発見)-自分に光を当てる-まとめ 自己ブランディング:STEP2(社会的自己分析・発見について)-テーマ1私の仕事能力
10	実践行動学Part1コンセプト、意欲的な心構え 実践行動学Part1マジックドア1 夢と目標
11	実践行動学Part1マジックドア2 夢を喰うバク「誤った思い込み」と「言い訳」
12	実践行動学Part1マジックドア3 自分への信頼を取り戻すために その1 行動のよりどころと心構え
13	ソーシャルスキル:適切な話し方と聴き方を知ろう
14	実践行動学Part1マジックドア4 自分への信頼を取り戻すために その2 まず第一歩を
15	実践行動学Part1マジックドア5 目標を設定しよう
16	就職講演1:校長先生 ソーシャルスキル:コミュニケーションの難しさを知る
17	実践行動学Part2マジックドア1 プラス思考が自分の能力・可能性を大きく広げる 就職活動のあらまし 今後のスケジュールについて 1分間スピーチ ソーシャルスキル:あなたにとって何が大切
18	自己ブランディング:自己ブランディングの記入 個人ガイダンス
19	〃
20	自分の適正と職業選択 就職活動の流れ 志望先を選ぶ時の注意点 第1回アサーショントレーニング 実践行動学Part2マジックドア2 考え方が変えれば行動が変わる
21	頭髪、身だしなみ、服装指導 第2回アサーショントレーニング
22	実践行動学Part2マジックドア3 あなたの問題は、あなたが解決できる
23	自己ブランディング:STEP3自己表現・自分ブランディングについて テーマ1私という人間を理解させ、共感を得る 第3回アサーショントレーニング
24	実践行動学Part2マジックドア4 コミュニケーションスタイルを見直そう
25	就職講演2:就職部
26	実践行動学Part2マジックドア5 目標があなたの才能を開花させる
27	自己ブランディング:STEP3 長所をまとめてみましょう 短所をまとめてみましょう インターンシップ指導、就職強化週間準備
28	インターンシップ指導、就職強化週間準備
29	インターンシップ指導、就職強化週間準備 自己ブランディング:STEP3 趣味・特技について、アルバイト・部活動について
30	インターンシップ指導、就職強化週間準備
31	インターンシップ指導、就職強化週間準備 自己ブランディング:STEP3 学生時代で力を入れた事(学業について、学業以外について)
32	就職強化週間準備

回数	講義内容
33	個人ガイダンス
34	〃
35	自己ブランディング:記入事項の整理 SPI対策、求職票作成
36	〃
37	就職講演:社労士「社会保険の仕組み、就業規則、求人票の見方」
38	就職活動の流れ・考え方 冬休みの過ごし方
39	冬～年度末にかけての就職スケジュールについて 書類選考対策 履歴書の書き方 他
40	書類選考対策 履歴書の書き方 他
41	就職活動の流れ(合同説明会、個別説明会、企業主催のインターンシップ 他)
42	インターンシップ指導 就職強化週間指導、年度末にあたって
43	〃
44	〃